

# はくさん

第51巻 第2号



## 「山—川—海そして雪 命を育む水の旅」

白山手取川ユネスコ世界ジオパークでは、白山を源流に日本海へ注ぐ、手取川の流れを「水の旅」「石の旅」というキーワードで捉えています。今回の表紙の写真は、「水の旅」について白山を起点に取り上げて構成してみました。

白山に降り積もった雪が解け、小川をつくり、時に急流や滝となって大地を削りつつ下っていきます。水の流れは新たな景観を生み出しつつ、ダムに豊かな水として貯えられます。そこから流れ出た水や伏流水として地下を流れていた水は、川から海にたどり着く旅の途中で人々の日々の生活を支え、さらに多くの命を育みます。水は湧水として人々の喉を潤したり、また、いくつもの用水を流れ、豊かな田畑を育みます。やがて、水は河口へと向かい、日本海へ…。しかし、この旅はここで終わりではありません。日本海に出た水は、降り注ぐ太陽の光により水蒸気となって上昇気流に乗り、季節風とともに日本列島に運ばれ、命を育む水として再び白山に戻ってきます。

(川島 敦仁)

## 目次

- |            |                                      |       |
|------------|--------------------------------------|-------|
| <b>P1</b>  | 大人からの昆虫採集 — カミキリムシを探して —             | 八神 徳彦 |
| <b>P5</b>  | 白山にライチョウはいる？ — ライチョウの特徴を見てみよう —      | 近藤 崇  |
| <b>P11</b> | 花らんまん 夏の白山 — 登山者「花」アンケートin市ノ瀬 中間報告 — | 後藤 理子 |

# 大人からの昆虫採集 — カミキリムシを探して —

八神 徳彦

皆さんは「昆虫採集は子供の遊び」と思っていませんか。私の子供の頃（1960年代？）は、夏休みの宿題に昆虫採集をして標本箱の中の昆虫を自慢しあい、自分こそは昆虫博士だと自慢する子供が何人もいたものでした。私も昆虫が大好きで、夏休みは一日中昆虫を探して捕まえ、飼育したり、死んでしまったものを標本にしたりしていました。しかし、あんなに夢中になっていた昆虫採集も、いつの間にか忘れて大人になっていました。やがて、自然豊かな石川県で就職し、子育ても少し楽になった頃、ふと自分が楽しめる趣味は何だろうと思うようになりました。そんなある夏の日に、伐採された木の上に鮮やかなブルーのカミキリムシを見つけました。子供の頃、図鑑で見ていつか自分で捕まえてみたいと思っていたルリボシカミキリ（写真1）です。あまりの美しさに捕獲して家でじっくり観察し、死んだ後は触角や足を整形して標本にしてみました。すると、子供の頃に夢中だった昆虫への想いがよみがえって来ました。その後、カミキリムシにとっても詳しい方と知り合い、カミキリムシの探し方、見分け方、標本の作り方などを教えてもらおうと、すっかりその魅力に引き込まれていきました。子供の時とは違った、大人になってからの昆虫採集は、知識、体力、お金、時間、家族の協力などが必要になってきます。そして、正しく、楽しくやれば一生楽しめる素敵な趣味になります。ここでは、大人になってからの昆虫採集についてカミキリムシを例にしてお話しようと思います。



写真1 ルリボシカミキリ

今ではいろいろな情報がネット上で閲覧できますが、やはりまず図鑑を買いましょう。子供用の図鑑でもとても面白いものがありますが、ちょっと踏み込んでやっていく場合は専門的な図鑑が欲しいものです。値段も高いですが、大人の昆虫採集はお金もかかります。図鑑を眺めて「きれいだな、かっこいいな、自分の目で見てみたいな」と思う昆虫がいたら、さらにその昆虫についての情報を調べます。どの地域で、どのような環境で、いつ頃、何をしているか、そしてそれを見つけるにはどうしたらいいのかを調べます。例えば、先のルリボシカミキリを調べると、北海道、本州、四国、九州などに分布し、ブナ類などの倒木や山の集材所に6～9月に現れる（藤田ほか,2023）とあります。ルリボシカミキリは枯れた木に産卵するので、発生する時期にそのような場所を探せば良いのです。それでは、いくつかの例を挙げてカミキリの探し方、採集の仕方をご紹介します。

## 1. 花や葉をネットすくで掬う（スウィーピング）

採集道具、標本資材などは昆虫関連の通信販売から買うことができます。カミキリムシに限らず昆虫採集の基本道具は捕虫ネットです。大人の昆虫採集では、例えば、次のようなものをそろえるのが良いでしょう。ネットの金具の口径は50cmほどのスプリング式や折りたたみ式さおがあります。竿は



写真2 スウィーピング

昆虫用の長いくり出し竿<sup>まお</sup>が欲しいですが、私は比較的安い磯釣り用のたも網の竿を使っています。最初は長さ3～5m程度のものが扱いやすいようです。ネットは飛んでいる昆虫を捕らえるだけでなく、高いところの木の花や葉に潜んでいる昆虫を掬<sup>すく</sup>うためにも必要です。木の花には多くのカミキリムシが集まるので、このネットで高い枝先の花を掬います（写真2）。カミキリムシがよく集まる花は、春のヤマモミジなどカエデの花から始まって、ウワミズザクラ、ミズキ、ナナカマド、クリ、アカメガシワ、ノリウツギ、リョウブなどで、季節とともに移り変わっていきます。カエデ、ウワミズザクラ、ミズキなど春の花では、トゲヒゲトラカミキリ（以下、種名のカミキリを省略）、キバネニセハムシハナ、コジマヒゲナガコバネ、ヒメクロトラ、ヒナルリハナなど多数のカミキリを採集することができます。初夏になりナナカマド、クリ、アカメガシワの花には、ベニ、ミヤマホソハナ、カラカネハナ、シロトラなどが、盛夏のノリウツギ、リョウブの花にはアオ、ヨツスジハナ、アカハナなどが採集できます（写真3）。また、シシウドやアカショウマなど草の花でも、ヒメハナカミキリの仲間や、マルガタハナ、ルリ、ミドリ、ツヤケシハナなどが採集できます。スウィーピングで採集するには、どこに、いつどのような花が咲くのかを知っていなければなりません。同じ種類の花でも、標高や地域によって開花の時期が変わってきます。それぞれの木がどこにあるか熟知したマイフィールドを持つことがお勧めです。ネットで掬うのは花だけではありません。植物の葉や枝先を食べるカミキリムシもたくさんおり、これらを採集するために、木の葉や草もスウィーピングします。特定の種類の植物を食べるカミキリムシも多く、その採集には餌となる植物を探します。例えば、ジュウニキボシはハリギリの葉を食べます。ハリギリはブナ林で見られる木で、葉がカエデのように切れ込みがあり、枝には鋭いとげがあり、樹皮は荒いコルク質の木です。まず、成虫の発生期の7月頃ハリギリの木を探し、葉を注意深く見上げ、ジュウニキボシが葉を噛<sup>かじ</sup>った筋状の痕を探します。痕跡があれば、捕虫ネットを伸ばして周囲の葉を丁寧に掬っていきます。このように、単に昆虫を探すのではなく、昆虫の生態を知り、昆虫の生息する植物や環境や虫の痕跡を探す必要があります。まず最初はいろいろな花や葉をスウィーピングするのもいいと思います。それでもいろいろなカミキリムシを採集できますが、どんな植物で採れたかなど記録しておく、より深く楽しむことができます。



写真3 ノリウツギの花に来たヨツスジハナカミキリ

## 2. 枝や葉などを叩く（ビーティング）

捕虫ネットによるスウィーピングでは手の届かない高い所や遠いところの昆虫を採集しますが、低い茂みなどに潜んでいる昆虫を採集するにはビーティングネットを用います。これは、丈夫な布を開いて枝の下で構え、棒で枝などを叩いて昆虫を落として採集するものです（写真4）。自作したり、開いた傘を逆さにして代用することもできます。カミキリムシの潜んでいそうな枯枝や茂みを叩くと、ゴマフカミキリの仲間、チビカミキリの仲間、サビカミキリの仲間などを採集することができます。特に、9月から10月に低木に引っかけた枯葉や、湿った広い枯草（アザミ、フキ、



写真4 ビーティング

ヤグルマソウなど)の中に潜んでいるコブヤハズの仲間を採集するのは「コブ叩き」と呼ばれて楽しいものです。

### 3. 伐採木等で探す

カミキリムシの多くは枯れた木に産卵するので、伐採された木が集められている場所(写真5)でたくさんのカミキリムシが見つかることもあります。スギにくるカミキリムシは少なく、石川県では広葉樹が狙い目です。伐採されて古い木にはあまり来ませんが、伐採された新しい生木には、トラカミキリの仲間、ゴマフカミキリの仲間などを多くみることができます(写真6)。森の脇に集められた木や、積まれた薪、伐採地に集められた枝、風で倒れたり雪で折れた太い枝など普段から注意して場所を覚えておき、シーズンに見て回るといろいろな種類に出会うことができます。また、そのような場所を夜に見ると違ったカミキリムシを見ることもできます。



写真5 カミキリの集まる伐採木

### 4. 夜間に光で集める

夜間に光に集まるカミキリムシもたくさんおり、夜に外灯や自動販売機の周囲を見て回ると、シロスジヤクロ、ビロウドなどを見ることができます。もっとのめり込めば、発電機やバッテリーで虫が集まるライトを点灯すれば、たくさんの昆虫を見ることができます(写真7)。山の中でライトに集まる虫を眺めていると、仕事で疲れたことも忘れ、大人の虫採りを満喫する事ができるでしょう。



写真6 薪に集まるゴマフカミキリ、  
キイロトラカミキリ

### 5. 幼虫のいる枯枝を拾う

多くのカミキリムシの幼虫は枯れた木に住んでいます。幼虫のいる枯枝を拾ってきて、衣装ケースや大型のネットに入れて保管し、そこから羽化してくるカミキリムシを採集する方法で、「材とり」と言います。幼虫のいる木は穿孔した孔と、切りくずのような糞が詰まっています。新鮮な糞が詰まっていれば「あたり」ですが、孔にアリがいたり、古い感じがすればすでに幼虫はいない「はずれ」です。多くのカミキリムシは種によって好む樹種があるので、狙ったカミキリを採集するためにはカミキリが好む特定の木の枯枝を見つける必要があります。このため、枯れた木であっても樹皮や木の芽を見て樹木の種類が分かる植物の知識も必要となります。



写真7 ライトに集まる虫

### 6. 標本を作る

採集したカミキリムシは、写真撮影してリリースするのもいいですが、たいていは標本にして保存します。標本にするには、採集した昆虫が傷まないうちに殺します。多数の昆虫を生かして

同じ入れ物に入れておくと、互いにかみ合っただボロボロになってしまうので避けなくてはなりません。通常、毒瓶と呼ぶ小さな密封できる容器に、酢酸エチルという薬剤を綿に染みこませたものに入れて、この中に昆虫を入れて殺します。殺した虫は、触角や脚を整形して乾燥させますが、大きな昆虫以外はタトウという紙で包んだカット綿の上で整形（展脚）乾燥させます（写真8）。標本は全身を観察しやすく美しく仕上げるため、左右対称に整えますが、一気に美しく整形はできません。数が多くて一気に処理できないときは、密閉チャックに入れて冷凍庫の中で保存しますが、家庭の冷凍庫に昆虫を入れる場合には、家族の同意を得てからにしましょう。タトウの中では、最初は大まかに整えておき、毎日少しずつ整えていきます。生乾きになると整形しやすくなりますが、乾燥しすぎたときに無理に整形すると、脚や触角が折れるので注意が必要です。タトウには採集日、場所を仮に書いておきましょう。乾燥した標本は放置するとカツオブシムシなどに食べられることがあるので、乾燥中も防虫剤と一緒にタッパなど密封容器で保管します。大きなものは胴体に針を刺しますが、2 cm以下程度ならケント紙などで台紙を作りそれに貼り付けて、台紙に針を刺します。私はプラスチック板を台紙にしていますが、長年の間に劣化しやすいようです。標本はいくら美しくても採集した日付、場所、採集者のデータがなければ標本としての価値はありません。統一した様式でラベルを各個体に付けますが、私は日付、場所、採集者名のほかに、通し番号、標高、採集方法、採集した植物など記載するようにしています。標本を収納する箱は高価ですがドイツ箱が良いでしょう（写真9）。標本を防虫剤と一緒に入れ、年に1回は防虫剤を入れ替えます。



写真8 タトウの上で展脚

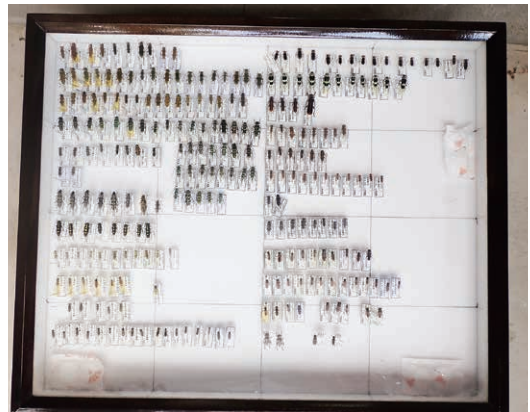


写真9 標本箱に分類して保管

## 7. 写真を撮る

採集だけでなく、生態写真を撮るのも違った楽しみがあります。マクロ撮影や深度合成機能のついたデジカメもあり、簡単に接写撮影ができます。すでに採集したものは生態写真に挑戦してみましょう。また、美しく整形した標本も深度合成して撮影すると、図鑑のような写真が撮れ、別の楽しみ方ができます。

このように昆虫採集の楽しみ方はいろいろあります。知識を得たり、採集に行くために時間やお金が必要ですし、時には過酷な場所に行くため山歩きができる体力も必要です。そしてなにより、忙しい仕事の合間を縫って昆虫に会いに行くための気力が必要です。私は昆虫採集という目標ができたことにより、石川県だけでなく南西諸島の亜熱帯の森、北海道の広大な大地、中部山岳の森などいろいろな場所に行き、素晴らしい自然に出会うこともできました。昆虫採集という目標がなければ、このような場所には行くこともなかったと思います。退職となった今では、時間はできましたが体力と気力の減退をひしひしと感じ、以前のように虫を求めて過酷な場所に行くことはできなくなりましたが、これからも無理のない程度で、マナーを守って昆虫たちと楽しんでいきたいと思っています。

## 引用文献・参考資料

藤田 宏・平山洋人・秋田勝己（2023）日本産カミキリムシ大図鑑（Ⅱ），むし社，東京。

# 白山にライチョウはいる？ — ライチョウの特徴を見てみよう —

近藤 崇（白山自然保護センター）

白山でライチョウを目撃しましたというご連絡を年に数回いただきます。情報提供ありがとうございます。また、白山でイワヒバリを観察しているときに、通りかかった登山者の方がイワヒバリを見て、「ライチョウの雛」がいると話している声が聞こえてきました。残念ながら、ここ数年はライチョウと判断できる情報はなく、ほかの鳥類と思われる事例が多くありました。そこで今回は、白山のライチョウのこれまでの生息状況やライチョウを見分けるのに役立つ特徴、ライチョウと身近な野鳥の大きさを比較、そして、高山帯で見られるライチョウ以外の鳥たちをご紹介します。

## 1. 白山のライチョウの絶滅と再発見と現在

花井・徳本（1976）によると、白山のライチョウは大正時代（1912～1926年）以降、1930年代までが絶滅のプロセスをたどった期間として推定されています。また、上馬・佐川（2011）では、写真による確認記録があるものとして、1950年代に2例、2008年に別山1例が挙げられています。そして、2009年に白山でメスのライチョウ1羽が再発見されて話題になり、そのライチョウについて県や環境省により継続した調査が行われました（写真1）。その後、2016年4月の登山者の目撃情報を最後に白山でライチョウは確認されなくなりました（小川 2019）。

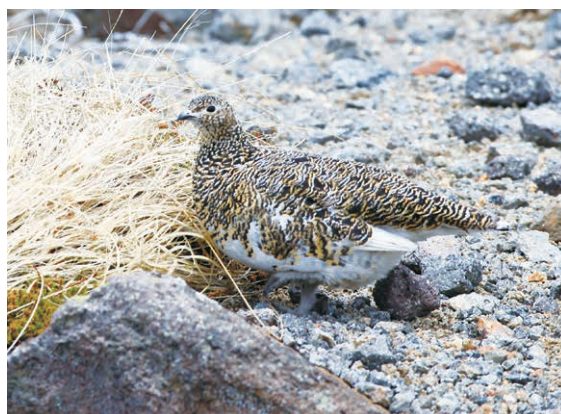


写真1 再発見された白山のライチョウ  
2009年6月2日

2023年現在では、白山にライチョウの生息は確認されていませんが、2009年に再発見された個体は、DNA分析の結果、北アルプスの集団に由来するものと推定されており（中谷内・上馬 2010）、長期的には今後も白山にライチョウが飛来することが期待されています。そのため、皆さんが白山に登った際にももしかしたらライチョウを目撃することがあるかもしれません。

## 2. ライチョウの特徴

高山帯で鳥を見つけた際に、ライチョウかどうか見分けるためにはその特徴を知っておく必要があります。ライチョウらしき鳥を見つけた際に、以下の特徴に当てはまるかどうか確認してみてください。

一つ目の特徴は、ライチョウのお腹が白いこと。ライチョウは、体の上面や側面の羽毛を年に3回換羽（羽が抜け換わること）し、全身真っ白な冬羽、オスは黒っぽい・メスは茶褐色の夏羽、黒褐色の秋羽と全身の色合いを変化させますが、お腹と広げた翼は常に白です（写真2～4）。よく間違えられるホシガラスのお腹は黒褐色に白のまだら模様なのでライチョウの白さとは異なります。



写真2 冬羽のライチョウ  
2009年5月6日 立山

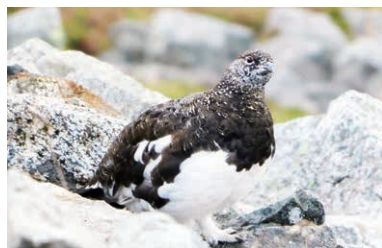


写真3 秋羽のライチョウ オス



写真4 (左メス、右オス) のライチョウ

※写真3、4は2023年9月23日 立山

次の特徴は、ライチョウの足には羽毛が生えていること。この特徴はライチョウの学名にも表れていて、*Lagopus muta*の*Lagopus*は「うさぎのような足」を意味しています。キジの足と比べてみるとその違いは一目瞭然で、大部分の鳥類の足はうろこ状になっています。ライチョウの足の羽毛は、冬には密になり、寒さ対策になっていると考えられています。



写真5 ライチョウの足（白い羽毛で覆われている）  
いしかわ動物園



写真6 キジの足（うろこ状）

最後にライチョウのオスとメスの見分け方です。ライチョウのオスの目の上には、肉冠と呼ばれる赤い部分がありますが、メスにはほとんど見られません。肉冠の大きさは変わるため、より大きく見えるときもあれば、あまり目立たないときもあります。

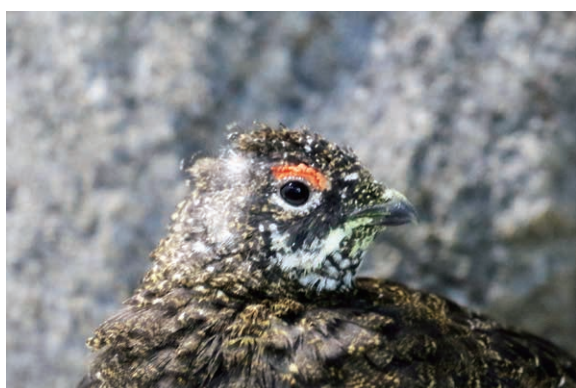


写真7 ライチョウのオス（目の上に赤い肉冠がある）  
いしかわ動物園

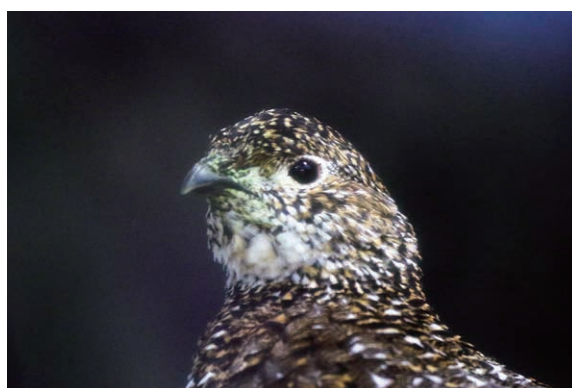


写真8 ライチョウのメス（肉冠は見られない）  
いしかわ動物園

### 3. 身近な鳥との大きさ比較：ものさし鳥

皆さんは日常生活の中で鳥を見る機会はあるでしょうか？あまり興味がない人でも、鳥といえば、スズメ、ハト、カラスあたりが思い浮かぶかもしれません。ほかには、建物の軒先などで巣を作るツバメ、地域によっては夕方になると街路樹や電線に集まっているムクドリなども目にはいつてくるでしょう。冒頭でお話したように、慣れていない人はつい、高山帯の鳥＝ライチョウとってしまうかもしれません。しかし、これら身近な鳥を普段から見ておくと、山に登った時に見た鳥が何かを調べるヒントにもなります。

まず、鳥の大きさ、全長はどこのことを指すのかご存じでしょうか？鳥の全長とは、鳥の体を真っ直ぐに伸ばしてくちばしの先から尾の先端までの長さです（図1）。しかし、ライチョウの全長は約37cmとだけ聞いてもいまひとつピンときませんね。そこで、目安となる身近な鳥の大きさを知っておくと、高山帯で出会った鳥がライチョウらしいかどうか考える手掛かりになります。この

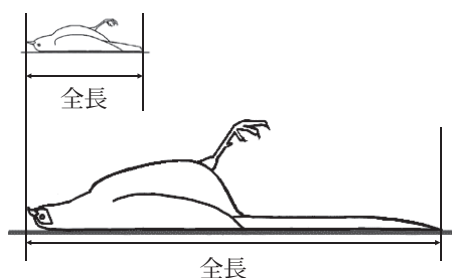


図1 鳥の全長の測り方

ように大きさの目安になる鳥は「ものさし鳥」と呼ばれ、スズメ15cm、ムクドリ24cm、キジバト33cm、ハシブトガラス57cmなどが挙げられます。つまり、ライチョウはキジバトよりはやや大きくて、ハシブトガラスよりはだいぶ小さいです。

ただし、観察できる距離や、止まっているときと飛んでいるとき、鳥の姿勢、背景などさまざまな条件によって鳥の大きさの印象は大きく変わってきます。まずは鳥の大きさに着目して身近な鳥をじっくりと観察してみると楽しいかもしれません。

また、鳥の全長はくちばしから尾の先までと決められているので、サンコウチョウ（オス：45cm、メス：18cm）やキジ（オス：81cm、メス：58cm）、ヤマドリ（オス：125cm、メス55cm）などのオスのように尾の長い鳥の全長は長くなるので、鳥を見る際には全長の数値だけでなく体形にも要注目です。



写真9 スズメ（全長 15cm）

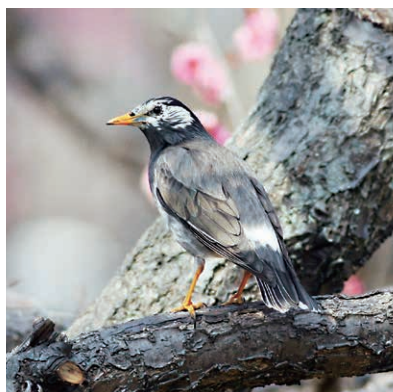


写真10 ムクドリ（24cm）



写真11 キジバト（33cm）



写真12 ハシブトガラス（57cm）

#### 4. ライチョウと同じキジ科の鳥：ヤマドリ

ライチョウはキジ目キジ科に分類される鳥で、同じキジ科には、日本の国鳥のキジ、百人一首にも登場するヤマドリなどがいます。野鳥ではないですが、ニワトリもキジ科の鳥です。キジ科の鳥はそれぞれ主な生息環境はことなりますが、地面を歩いて食物を探し、体形はすこしずんぐりとしているなどの共通点があります。特にヤマドリは標高が比較的高いところでも目撃されることがあるため、尾の短いヤマドリ（若鳥やメス）はライチョウと見間違えられることがしばしばあります。出会ったときはライチョウの特徴で紹介した、お腹が白いかどうかを確認してみてください。ただし、警戒心が強いことが多く、すぐに隠れて見えなくなってしまうかもしれません。

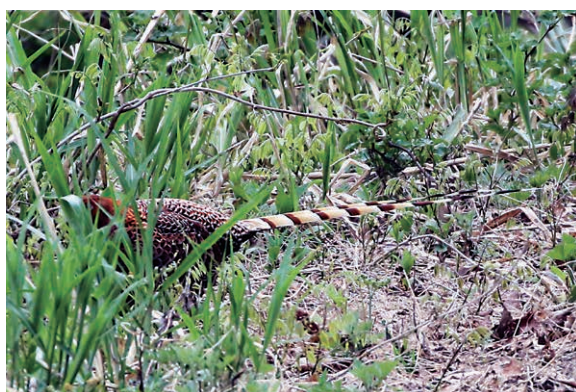


写真13 ヤマドリのオス（125cm）



写真14 ヤマドリのメス（55cm）



## 5. 高山帯で見られる鳥たち

ライチョウを除いた高山帯の代表的な鳥といえば、ホシガラス35cm、イワヒバリ18cm、カヤクグリ14cmなどが挙げられます。ホシガラスはライチョウに比較的近いサイズで、白色もあるためかしばしばライチョウと間違えられます。しかし、体型がライチョウより細く、くちばしが大きく、色合いも黒褐色に白のまだら模様とライチョウと大きく異なります。イワヒバリも地面を歩いていることが多いためか見間違えられることがあります、落ち着いてみればお腹は白くなく、大きさはスズメよりも大きく、ムクドリよりも小さいことからライチョウとは異なることが分かります。カヤクグリもハイマツなどでよく見られますが、こちらはスズメよりも小さいです。



写真 15 ホシガラス (35cm)

そのほか、高山帯には、ルリビタキ、メボソムシクイ、ウソ、ビンズイなどの鳥たちがいます。これらの鳥はライチョウと見間違えるような鳥ではないですが、図鑑やインターネットなどでぜひ確認してみてください。



写真 16 イワヒバリ (18cm)



写真 17 カヤクグリ (14cm)

## 6. おわりに

次に山に登った際に見る鳥をライチョウかどうか見分ける自信はつきましたか？ライチョウの特徴を覚え、身近な鳥をみることで大きさの感覚をつかみ、間違えられやすい鳥や、高山帯で見られる鳥を覚えておけば、ライチョウを見間違えることはまずなくなると思います。また、いしかわ動物園で実際に本物のライチョウを見ておくこともおすすめです。

白山でライチョウと思われる鳥を目撃した際には、ぜひ当センターへの情報提供をお願いいたします（代表メールhakusan@pref.ishikawa.lg.jpまたはHPのお問い合わせ）。日時や場所、また写真があると大変有力な手がかりとなります。しかし、夢中になりすぎて登山道から外れてしまうことや、追いかけてまわってしまうようなことのないようにお気を付けください。今後、いつライチョウが白山に飛来することがあるのかは分かりません。しかし、白山には今はライチョウが生息していないけれど、飛来してきた個体がいるかもしれないと心の片隅に置いて、山登りの楽しみの一つにさせていただけると幸いです。

### 引用文献・参考資料

- 安部直哉・叶内拓哉（2008）山溪名前図鑑野鳥の名前. 山と溪谷社, 東京.
- 花井正光・徳本 洋（1976）白山におけるニホンライチョウ, *Lagopus mutus japonicus* の絶滅について. 3, 95-105.
- 中村浩志（2013）二万年の奇跡を生きた鳥 ライチョウ. 農山漁村文化協会, 東京.
- 中谷内修・上馬康生（2010）白山で発見されたライチョウの遺伝子分析. 37, 49-55.
- 小川弘司（2019）白山の自然誌39白山のライチョウの歴史. 石川県白山自然保護センター, 白山.
- 上馬康生・佐川貴久（2011）白山におけるライチョウの生息可能数の推定と絶滅について. 38, 47-56.

# 花らんまん 夏の白山

## — 登山者「花」アンケート in 市ノ瀬 中間報告 —

後藤 理子（白山自然保護センター）

白山登山の目的や楽しみは人それぞれですが、白山はなんといっても花の名山、高山に咲く花々を楽しみに来られる方も多いのではないのでしょうか。

私の勤める市ノ瀬ビジターセンターは、白山国立公園、白山の登山口にあり、開館期間は多くの登山者でにぎわいます。ハイシーズンには登山バスの発着所にもなるため、登山前の情報収集、下山後の振り返りなどに立ち寄られる方も多く、フレッシュな白山の情報収集に毎日努めています。また、電話での白山に関する問い合わせも多くいただくため、立ち寄られた登山者さんからの情報はとても役立っています。

そんな中、特に多い話題が、白山の「花」についてです。花の観察スポット、花の見ごろ時期の問い合わせに始まり、常連さんからは「去年に比べて咲き具合や時期はどう？」と細かなところまで問われたりすることもあります。また、下山された方からは、カメラやスマホに収めた花の写真を見せていただき、花の名前を問われたりもしますが、わかるととても喜ばれるのも印象的です。「こんなにきれいだったよ！」と、うれしそうにお花畑や花の写真をみせてくださる方々も少なくありません。登山者を魅了する白山の花の魅力はどこにあるのか？ 具体的に知りたくなり、アンケートを実施することにしました。

### 1. 「花」アンケート実施中！

「白山に咲く花の中で、一番印象的な花はなんですか？」市ノ瀬ビジターセンターに立ち寄られた登山者に、こんな問いかけをしてみています。白山登山で印象深かった花、思い出に残った花をひとつ挙げてもらっているのですが、思った以上に反応がよく、「やっぱりこれだよ！」と即答される方もいれば、「どれもきれいだったので迷いますね～」と、なかなかひとつに絞れない方もいらっしゃいます。



アンケートの様子 気になる花に一票

方法：市ノ瀬ビジターセンターカウンターに、花の写真と名前を記したボード

を設置し、職員が来館者に声をかけながら答えてもらう形をとりました。「今回の山で一番印象に残った花はなにでしたか？」とお尋ねし、これはと思った花の欄にシールを貼ってもらいました。ボードには、ぱっと目に入る目立ちそうな花、他の山でもよく見られるメジャーな花を選択肢に挙げ、写真と名前を表記しました。選択肢にない花を答えら

れた場合は、新しく付け足していきま  
した。

対象：ビジターセンター来館者のうち、白山登  
山を終えて立ち寄った方、また以前白山  
に登ったことのある方で、年齢や性別・  
登山歴等は問いません。

期間：2023年6月21日～9月30日（予定）

## 2. 中間報告

この文章を書いている現在もアンケートは継  
続中で、原稿締め切りの関係で、今回は開始日  
6月21日から7月31日間分を中間報告として  
集計してみました。41日間で、全476人の方  
にご回答をいただき、選ばれた花は37種でし  
た。上位5種（+番外編）を、以下に紹介いたし  
ます。またお花畑についても、聞き取りの中  
で話題に上がった場所をまとめました。



アンケートボード

### 《一番印象に残った花ベスト5》

**1位 クロユリ（ユリ科） 116票**



白山を代表する花として知られ、石川県の  
“郷土の花”にもなっています。白山では  
6月下旬ごろから咲き始め、7月中旬にな  
ると、室堂平周辺や南竜ヶ馬場には大群落  
が出現します。また、白山北部のお花松原  
では例年8月に入ると見ごろを迎えます  
が、この密度は別格で、群生地の手前か  
らあの独特の花の匂いが漂い始めるほど  
です。アンケート中「クロユリを見に白  
山に来ました」という声を何度も聞き、  
やはり白山を代表する花なのだな〜と、  
実感した次第です。

**2位 ニッコウキスゲ（ユリ科） 49票**



7月中旬、斜面を埋め尽くすように一  
斉に咲きます。観光新道馬のたてがみや  
エコーライン、別山平は絶好のニッコウ  
キスゲが見られるポイント。アンケート  
中ちょうどニッコウキスゲの開花期だ  
ったこともあり、群生を目にした方々  
には印象深かったようです。霧の中  
でも、この花の色は鮮やかに映えま  
すね。

### 3位 ハクサンコザクラ (サクラソウ科) 37票



小さなピンク色の花卉が風にゆらゆらと揺れる様子に、思わず「かわいい！」と声をあげてしまいます。雪渓が解け出す縁から咲き始めますが、ゆっくり近くで観察できるのは、エコーラインや南竜ヶ馬場、室堂平やお池めぐりコースでしょうか。群生地は、ピンク色のじゅうたんを敷いたようになります。

### 4位 ハクサンフウロ (フウロソウ科) 36票



今年は7月後半に咲き始めたようで、アンケートでも後半からぐんぐん票が伸びました。風にゆらゆら揺れる姿が可愛らしく、人気があると思われます。道中のお花畑の中でもゆらゆら揺れて可愛い姿で、室堂平いっぱい咲き広がる景色も見事です。

### 5位 イワギキョウ (キキョウ科) 27票



室堂から御前峰へ向かう道やお池めぐりコースに多く咲いています。清々しい薄紫色の花は、ふわっと開いてとてもかわいらしく、思わずしゃがんで声をかけたくくなります。毎年室堂平では、シロバナも混ざって咲きます。



シロバナイワギキョウ

### \*番外編 センジュガンピ (ナデシコ科) 15票



なぜ特別に取り上げたかという、この花を選んだほとんどの人が、驚くほど熱弁を振るいながら一票を投じていたからです。「抜けるような白さが強烈だった」「こんな清楚な花、初めてみた」「疲れが出始めていた時、ちょうどこの花が目飛び込んできて、一気に元気が出た！」などなど。砂防新道では人気の花のようです。

### 3. 印象深かったお花畑

そこそこに花が咲く白山では、どこもかしこもお花畑では？と思ってしまうのですが、足を止めてゆっくり眺めたいような場所を、今回そう呼ぶことにします。他の山々にもお花畑はありますが、白山のお花畑はよりカラフルで密度が濃いと思うのは、私だけでしょうか？決して広くはない高山・亜高山帯の斜面に、幾種もの花々が混ざって咲いている群落が、白山のお花畑の特徴だと思います。お花畑を散策した人は、「おなか一杯、胸一杯になるくらい花を楽しんだ」「ここ（花畑）だけで見たい花がほとんど見られた」と満足気に話をされます。リピーターの方は「3週間前と比べてガラッと斜面の色が変わって驚いた！7月はニッコウキスゲのオレンジ色、今回はシモツケやカライトソウのピンク色に染まっていた。」とおっしゃっていました。アンケートで挙がったお花畑スポットを次のページに示しました。(図1)



図 1

## 《その他 自由コメント》

アンケート中に聞かれた感想を羅列します。

- ・キヌガサソウを初めてみました！（3件）
- ・チングルマは秋までずっとかわいい
- ・ミヤマキンポウゲ、てかてかに光ってて、見てて元気ができました！
- ・花がそっくりで見分けが難しい（コケモモ、ツガザクラ、コメバツガザクラ？）。
- ・ハクサンイチゲはどこに咲いていますか？
- ・クロユリ、思ったより小さい。（4件）
- ・クロユリがたくさんあって感動！（5件）
- ・去年秋に来た時「花の季節にきてごらん」とすすめられてきました。花がフレッシュで最高によかった！ナナカマドの花も初めてみたけどかわいいですね！
- ・初めて見る花がいくつもあって、幸せでした。
- ・サンカヨウの実を初めてみたけど大きくてびっくり。
- ・高さ2mはある白い花、インパクト大！！（ミヤマシシウドのこと）



キヌガサソウ

日本海側に分布するので太平洋側から訪れた登山者にはとても人気

## 4. アンケートからみえる、白山の花の魅力

まず、クロユリの存在の大きさをあらためて知りました。先にも書きましたが、クロユリを目的に白山に来られる人もあり、白山＝クロユリに会える、というイメージが浸透しているように思います。クロユリの咲く山はいくつもあります。白山のクロユリの群生は密度も広さも日本一ではないかと…私は思っています。実際北アルプスや白馬等、花の名山と言われる山域でも、これほどのクロユリを見ることはまずないでしょう。

次に、白山のお花畑の多様性です。白山の高山帯は決して広くはありませんが、日本最西限の高山帯であり、白山が西限になる植物が何種類も生育する貴重なエリアでもあります。狭いエリアに多種咲きそろうため、カラフルで密度の濃い群落が形成されていると思われます。

そして、なんととっても花々が見やすい、見つけやすいことです。アンケート中の声にもありましたが、「あちこち登山をしてきたが、白山で初めて〇〇〇の花を見る事ができた！」と言う人が何人もいたのに驚きました。ほとんどの花が登山道のすぐそばで、それなりの数が咲いている証拠ではないでしょうか。豊かな自然が白山にあることを感じながらの登山が、登山者の心を癒してくれます。



お花畑の中の道を歩ける幸せ♪

## 5. 心配ごとも 少しあります

アンケートにお答えいただいた方には、白山の指定植物リストや外来植物除去活動の紹介もしています。この報告では「花」という言葉をあえて使いましたが、今回取り上げた「花」はいわゆる「高山植物」です。高山植物とは、標高が高い山の上に生育する植物のことを指し、その寒冷多雪な気候に適応しながら生育しています。高山帯の短い夏の間には高山植物は一生懸命成長す

るわけですが、クロユリ等は花を咲かせるのに8年、実をつけるのに10年ほどかかると言われています。そんな繊細な高山植物なので、ちょっとした踏みつけや食害、外来植物の侵入、わずかな気候変動でも影響を受けてしまうでしょう。また機会があればこのような問題にも触れてみたいと思いますが、ダイナミックに咲きそろう花たちも、実は懸命に命をつないでいることを覚えておきたいと思っています。



ハクサンオオバコ  
低地から侵入した西洋オオバコとの交雑が  
問題になっている

### 《いつまでも花らんまんの白山でありますように》

この原稿を書いている今夏は、記録的な猛暑が続いています。山の上は大丈夫だろうか？と心配にもなりましたが、登ってみれば、あの可愛らしい花たちがきらきらと咲きそろっていました。年によって花の咲き方に差がある種もあり、お花畑の景色は訪れるたびに異なり、毎年新鮮です。だから、やっぱり毎年行きたくなる（笑）！足が動く限り白山に通って、美しい花の姿を眺めたいと思うのです。いつまでもこの美しい白山であるために、私たちは自然の中に“お邪魔している”謙虚な気持ちを忘れず、マナーを守って登山を楽しみたいものです。

環境省白山国立公園アクティブレンジャー大石氏が、2018年8月17日に登山者対象に登山前後の意識アンケートを行っています。登山前は3人に1人は花が楽しみで、登ってみてもやはり高山植物に満足したという声を拾っています。今回のアンケートでも、多くの登山者が花を楽しみに白山を歩き、また花に感動を受けていることがよくわかりました。アンケートは9月末まで続ける予定で、次の機会に最終報告をお届けできればと思っています。また、花に親しむことで白山の自然にもう一步深く触れていただけるよう、アンケート結果を活用できればと思っています。最後になりましたが、ご協力くださった皆様、ありがとうございました。



アンケートは9月まで実施予定！

### 引用文献・参考資料

- ・白山\*立山花ガイド（第二版） 梅典雅著 橋本確文堂
- ・山溪ハンディ図鑑8 高山に咲く花 山と溪谷社
- ・環境省ホームページ・アクティブレンジャー日記（右：QRコード）  
『登った人にきいてみました！白山ってこんなところ』大石佳織



## センターの動き（令和5年7月1日～9月30日）

7.2 外来植物除去ボランティア研修講座	(白山市)	8.19 白山外来植物除去in室堂（～20日）	(白 山)
7.15 サドクルマユリ調査	(珠洲市)	8.21 県政出前講座	(金沢市)
7.15 中宮水遊びdays（～23日）	(中 宮)	8.22 インターンシップ	(木 滑)
7.30 モニタリング1000「高山帯」調査（～10月）	(白 山)	8.26 いしかわの里山里海展2023（～27日）	(金沢市)
8.7 筑波大学「世界遺産演習」	(中 宮)	8.29 白山登山交通対策協議会幹事会	(白山市)
8.11 県民白山講座「白山の自然・文化を知る」	(白山市)	9.9 白山外来植物除去in南竜ヶ馬場（～10日）	(白 山)

### 中宮水遊び days



カフトムシ、クワガタなどスラリ



よーし、捕まえるぞ



さあ流そう、作った笹舟

7月15日から23日にかけて中宮展示館で開催された中宮水遊びdaysは、今回レクチャーホール内に新しく笹舟工作コーナーを設け、昔ながらの川遊びのひとつとして紹介しました。工作後は、川に浮かべ楽しんでもらう企画でした。お父さんやお母さんといっしょに初めて工作に取り組んだお子さんもいました。できあがった笹舟を展示館前の蛇谷川に浮かべ、興味深げに流れていく様子を見守っている姿が印象的でした。秋にも中宮紅葉days（10/7～15）を開催予定です。皆様のご来館をお待ちしております。

### たより

猛暑の夏が過ぎ、ホッと息がつける秋が近づいてきました。頬にあたる心地よい秋の風を感じながら、ご家族やご友人の方と、秋の深まりとともに一足早く色づきを見せる自然の中でゆったりと散策してみたいはいかがでしょうか。色づき始めた木々や山々を眺めるだけでなく、動物たちの鳴き声を聴いたり、痕跡やその姿を目にする機会に恵まれるかもしれません。白山白川郷ホワイトロードの石川県側料金所近くにある中宮展示館の蛇谷自然観察路や白峰の市ノ瀬ビジターセンター近くにある市ノ瀬園地、岩屋俣谷園地などに是非お越しください。（川島）

はくさん 第51巻 第2号（通巻199号）

発行日 2023年●月●日（年3回発行）  
印刷所 株式会社大和印刷社

編集・発行

石川県白山自然保護センター  
〒920-2326 石川県白山市木滑ヌ4  
TEL. 076-255-5321 FAX. 076-255-5323  
URL <https://www.pref.ishikawa.lg.jp/hakusan/>  
E-mail. [hakusan@pref.ishikawa.lg.jp](mailto:hakusan@pref.ishikawa.lg.jp)

本誌は、再生紙へのリサイクル可能な用紙を使用しています



広告

# 「はくさん」に広告を掲載してPRしませんか？

広報紙広告ならではの

## メリット

地域に根ざした

## 情報発信

地域での

## 知名度向上

自治体発行の

## 信頼度の高い

広報媒体

他エリア自治体広告もお任せください！

092-716-1401

お問い合わせ

株式会社

ジチタイアド

福岡県福岡市中央区薬院1-14-5 MG薬院ビル7F

財源確保

※株式会社ホープの広告事業は、2021/12/1付で「株式会社ジチタイアド」に会社化しております。